令和４年度様式

事 業 報 告 書

１ 支 援 団 体 名	中島壮年部
２ 事 業 名 称	厳木ダム周辺「水辺の交流とオアシスの郷づくり」事業
３ 実 施 日 時	令和４年４月～令和５年３月
４ 実 施 場 所	唐津市厳木町中島墨田地内及び広瀬地域
５ 事業目的、内容及びその効果	（事業実施状況・内容） 本年度は、周年を通じて厳木ダム湖周辺及び管理道の除草、河川清掃・ホタル再生事業に加え、オアシスの郷（里山・里川）の環境整備事業を実施。５月からダム公園や管理道等の除草事業を皮切りに、６月河川清掃、７月には生物多様性保全事業（外来種の川藻等の除去）を実施。当初計画のイベント（川リンピック及び河川環境調査）は、本年度も中止を余儀なくされました。１２月には、町内の小学生を対象に森・川学習会を県農林事務所とのコラボにより開催。更に河川敷内の葦等の伐採。１月は里山（オアシスの森）整備の一環として、ツツジ等の植樹活動を実施。２月に河川敷内の葦、雑木等の焼却活動を実施いたしました。
	（事業実施効果） 厳木ダム周辺及び管理道、河川敷等の環境整備を始め、緑化活動等を通じて、ダムや水資源は流域住民の貴重な共有財産であるとの意識が根付いています。更に、生物多様性保全事業の一環として外来種藻等の除去やホタル再生活動等に加え、森・川の学習会を通して水資源の重要性や公益的機能の理解を深め、河川に対する恩恵と愛護思想が益々向上しています。本年も子供たちの情操教育に資するイベントが不可となり、県とのコラボ開催による森・川学習会や植樹活動により、生活との密接な関連性や森と川、海の関係性「一衣帯水」の原理などを学び里山の有用性と環境保全の必要性の理解を深めるとことが出来ました。本事業は、個性と魅力ある地域づくりとして地域活性化の起爆剤になると同時に、国交省所管事業である「川まちづくり事業」の計画策定に進展しています。
６ 参 加 内 訳	総人数 319 名
	（１）主催者参加 191 名
	（２）日本人参加（（１）を除く） 128 名
	（３）外国人参加（（１）を除く） 0 名
７ 今 後 の 方 針	里山・里川の有機的な活用を図る水辺の交流とオアシスの郷づくりの進展を図り、流域及び町内外の人々のプラットホームと体験交流場の役割を果たし、ダムや水資源の重要性と保全意識の醸成と向上を図ります。更に、第２次オアシスの郷づくりの基本構想策定の取り組みを推進し、オンリーワンの里川・里山の創造を加速させ、流域住民、世代間交流や子育て支援、体験・交流等のイベントの充実を図ると同時に情操教育の深化を図ります。これらの活動に加え、国交省所管事業等「川まちづくり事業」の計画策定等個性と魅力ある交流拠点としての認知度を高め、交流人口や関係人口の増大と中島地域ブランド化の構築を目指します。

５月２２日（ダムスポーツ公園除草作業）

６月５日（厳木川河川清掃活動）

７月１７日（オオカナダモ除去活動）

１２月１日（森・川学習会）

１月７日（オアシスの森植樹活動）

２月５日（河川敷葦等焼却活動）